

2021/7/3 自然史標本データ研究会

日本の生物多様性情報の これまでとこれから

JBIF NEXT

東京都立大学 都市環境科学研究科

日本生物多様性情報イニシアチブ

大澤 剛士 <arosawa@tmu.ac.jp>



JBIF

日本生物多様性情報
イニシアチブ

Japan Initiative for Biodiversity Information

Japan



standard

A GBIF Observer Country from Asia

ACTIVITY REPORT

日本はオブザーバーになりました

9,271,062

Occurrences

2,310

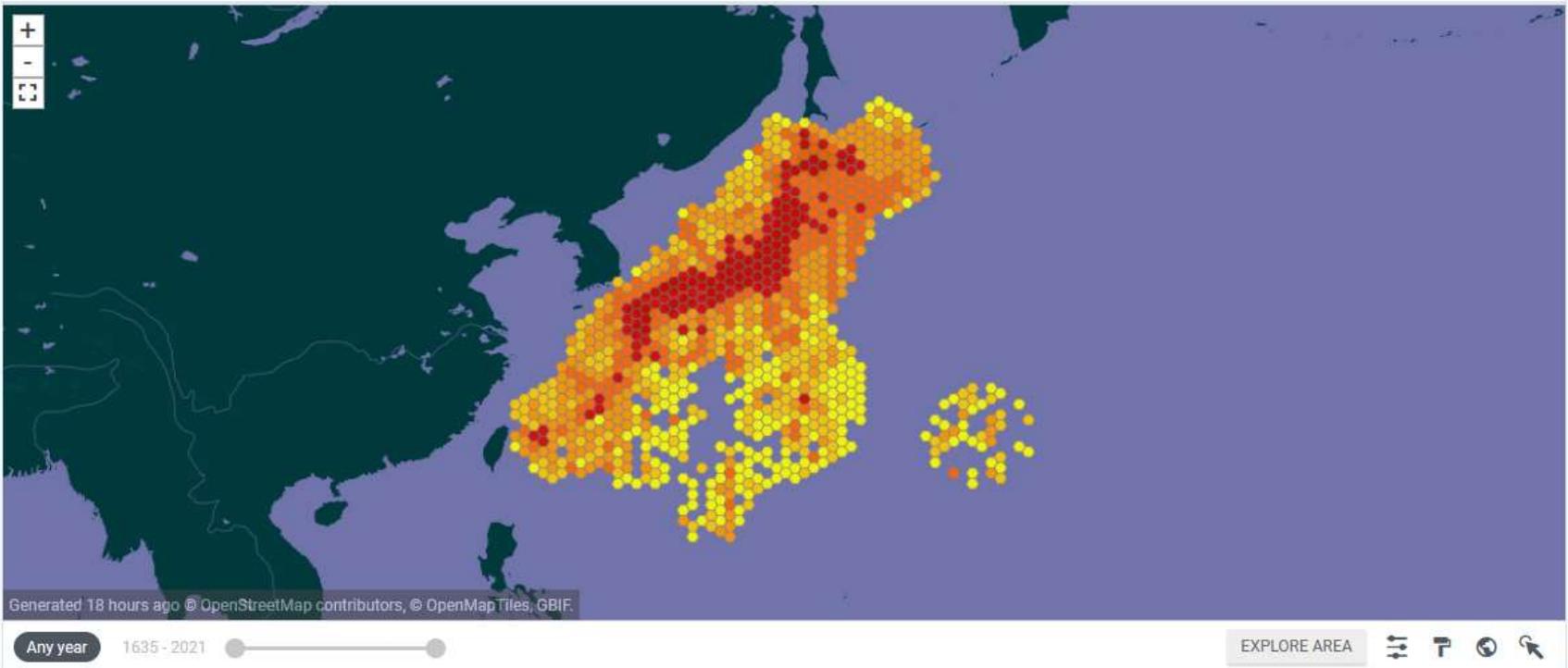
Datasets

42

Countries and areas contribute data

412

Publishers



立場、名称は変わっても
JBIFというコミュニティは維持されますし、
生物多様性情報の重要性は
何一つ変わりません！



一つの節目ではありますので、
これまでの活動を振り返り、
達成できたこと、今後力を入れるべき
ことを考えてみました。



大澤剛士,三橋弘宗,細矢剛,神保宇嗣,渡辺恭平,持田誠
GBIF日本ノードJBIFの歩みとこれから：
日本における生物多様性情報の進むべき方向
保全生態学研究(掲載決定)

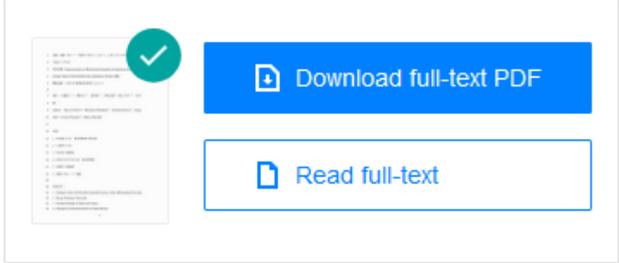
Home > Bioecology > Biodiversity > Biological Science > Biodiversity Informatics

Article PDF Available

GBIF 日本ノード JBIF の歩みとこれから：日本における生物多様性情報/Future perspective of Biodiversity Informatics in Japan based on the history of Japan Node of Global Biodiversity Information Facility (JBIF)

April 2021 · [Japanese Journal of Conservation Ecology](#) 26

Authors:



ポストプリント公開中



- **JBIFのこれまで (2012-2021)**
- 今後ますます必要とされる取り組み
- 日本の生物多様性情報の今後 (提案)



JBIFの活動

- 2001年 GBIF発足（OECDメガサイエンス・フォーラム）
日本はVotingとして参加

体制とルール整備

- 2012年 体制を一新（JBIFへ）
戦略目標（2012-2016）の設定し、関連活動を拡充

- 2015年 ステータスをAssociateに変更

データ蓄積と認知度の向上

- 2017年 戦略目標（2017-2022）の設定

- 2021年 ステータスをObserverに変更

利用性向上と実例作り

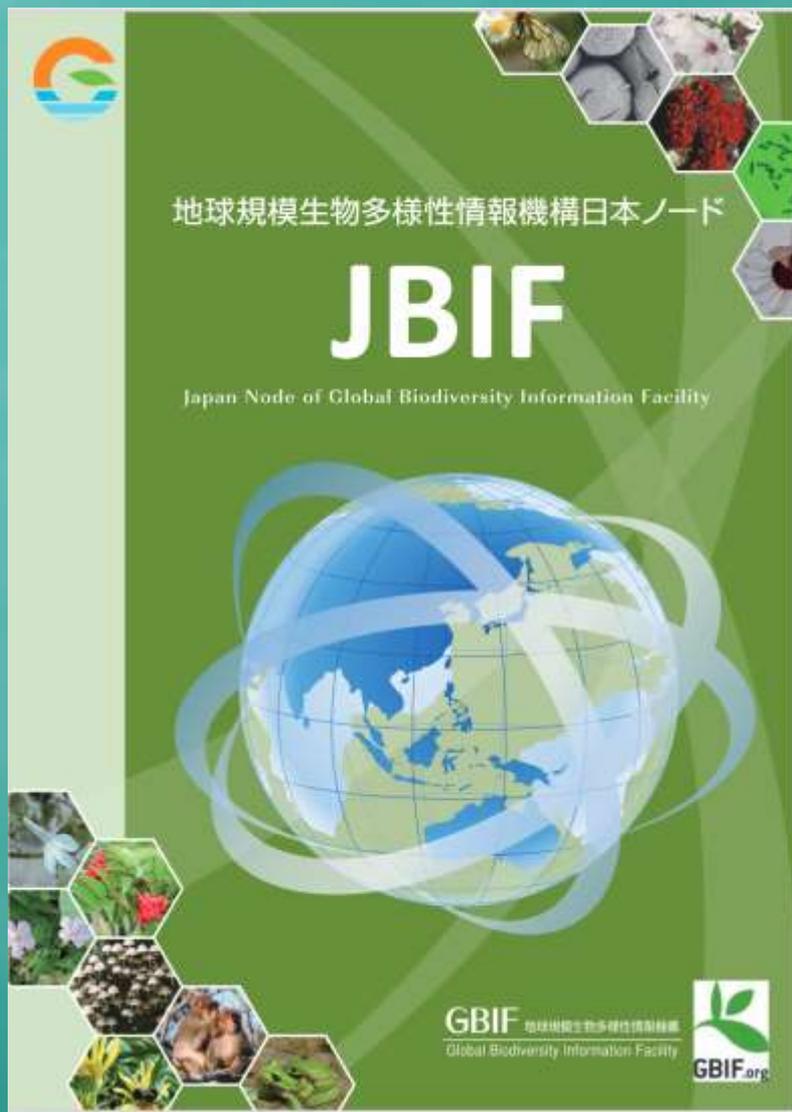
JBIF戦略目標(2012-2016)

1	多様性情報の重要性に対する認知度を向上させる
2	生物多様性情報に関する博物館施設の機能を向上させる
3	一般から行政まで幅広く生物多様性情報の重要性を訴える
4	日本ノードのプレゼンスを向上する
5	関連プロジェクトとの連携を模索する
6	アジア地域での共同的活動においてリーダーシップを発揮する

認知度の向上



JBIF戦略目標(2012-2016)



パンフレットの作成
随時更新

JBIF戦略目標(2012-2016)



GBIFワークショップ
21世紀の生物多様性研究(通算第8回)

外来種・移入種と 生物多様性情報

2013年12月14日(土)
13:00~17:00
国立科学博物館 日本館2階講堂(上野)
<http://www.kahaku.go.jp/userguide/access/index.html>

要旨集

主催: 国立科学博物館 / 東京大学大学院総合文化研究科 / 国立遺伝学研究所
共催: 日本分種学会連合 / 自然史学会連合
連絡先: workshop21@kahaku.go.jp
<http://www.kahaku.go.jp/research/symposium/bd2013.html>

GBIF

The poster features a central illustration of a globe with various animals and plants, including a bird, a deer, a giraffe, a lion, a zebra, a whale, and a magnifying glass over a small globe. The text is in Japanese and provides details about the workshop, including the date, time, location, and contact information.

講習会、シンポジウム開催
(年3回+地方行脚)

JBIF戦略目標(2012-2016)

JBIF 日本生物多様性情報イニシアチブ
Japan Initiative for Biodiversity Information

ライブラリー

こちら [GBIF Resources] のサイトも参考になります。

規約・覚書、参加者ノードについて

- GBIF利用規約、覚書
- GBIF参加者ノード

データの公開・利用のための知識と方法

- データ公開の方法
 - Metadataに関する情報
 - Darwin_coreに関する情報
 - Darwin_core Archive作成に関する情報
 - IPTに関する情報
 - 学名・和名に関する情報
 - 参考資料

GBIFの取り組み

- GBIFの計画と報告
- サイエンスレビュー (GBIFデータを用いた研究論文の紹介)
- 地球規模生物多様性情報提供状況 (GBIO)

リンク切れ資料: 新GBIFサイト (2017年8月にリニューアル) にリンクのないもの

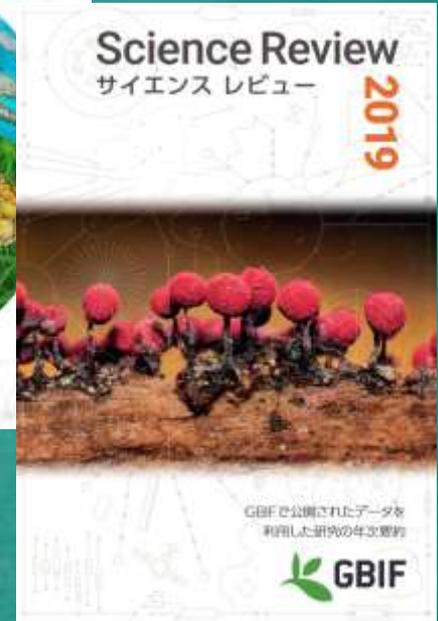
- 「データの公開・利用のための知識と方法」関連資料
- 「GBIFの取り組み」関連資料

規約・覚書、参加者ノードについて

GBIF利用規約、覚書

- Data publisher agreement
データ公開者契約
- Data user agreement
データユーザー契約
- Terms of use
利用規約
- Memorandum of Understanding (GBIF MOU)
GBIF了解書
 - 英語版 ◦ 和訳版

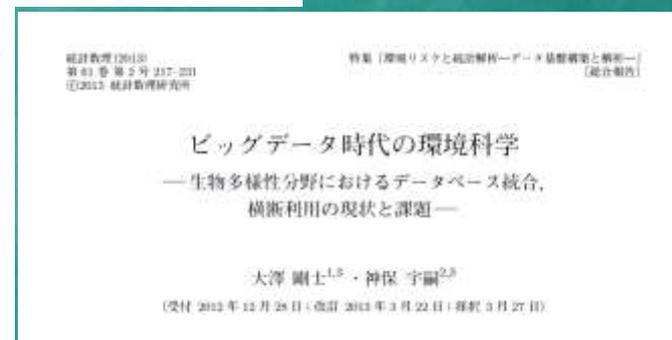
GBIF参加者ノード



各種関連ドキュメントの和訳
生物多様性情報の資料拡充

https://www.gbif.jp/v2/library/library_nov2017.html

JBIF戦略目標(2012-2016)



生物多様性情報概況 (GBIO) の和訳公開
関連解説記事の公表

JBIF戦略目標(2012-2016)



アジア地域を中心に
国際的な交流促進

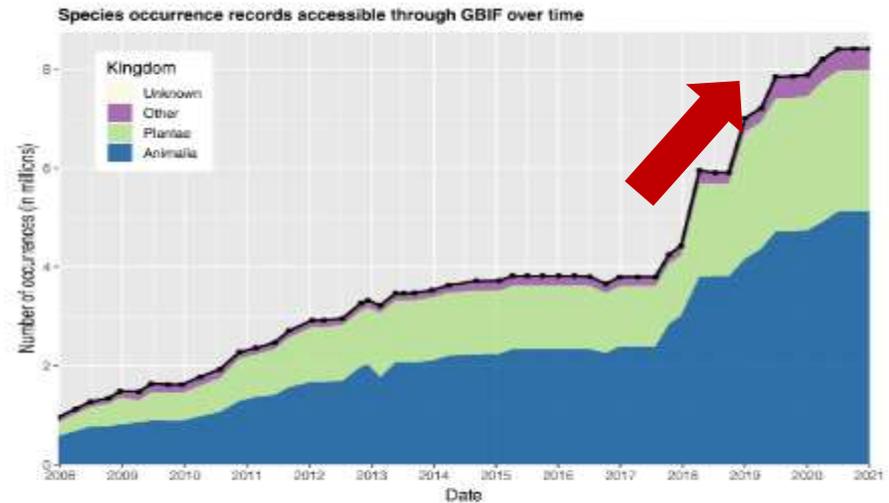
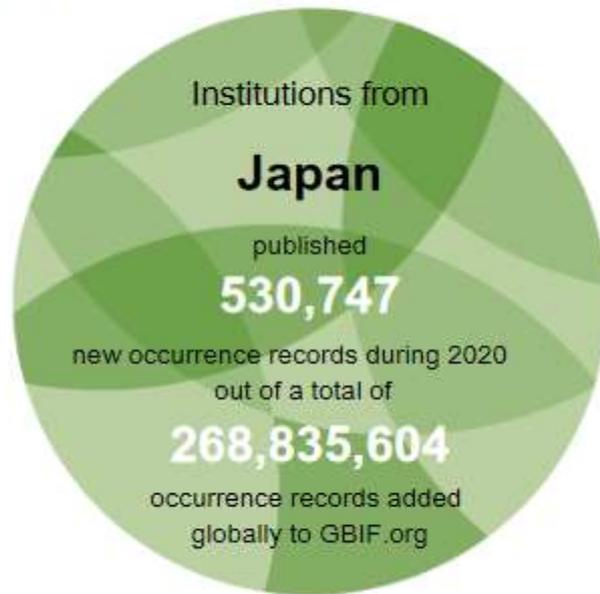
JBIF戦略目標(2017-2022)

1	科学および社会で必要とされているデータを提供する
2	インフラストラクチャーを充実させる
3	データの質的向上を図る
4	データギャップを埋める
5	関連活動との交流を促進する

利用性の向上と実例作り

JBIF戦略目標(2017-2022)

▶ Data mobilization



Number of records published by institutions in Japan,
categorized by kingdom

公開データの飛躍的な増加

JBIF戦略目標(2017-2022)

The screenshot displays the S-NET website interface. At the top, there are navigation tabs for '地図' (Map) and '航空写真' (Aerial Photo). The main area is a map of Japan with several red and blue location markers. Below the map, there is a search bar and a search button labeled '検索'. To the right, a search results table is visible, listing collection records for the species *Cardamine hirsuta*.

No.	Species Name	Collector	Date	Country	Region	Collection Site
1	<i>Cardamine hirsuta</i> (Thunb.) Blume	ギンラン	19751204	日本	高知県	高知国立自然植物園
2	<i>Cardamine hirsuta</i> (Thunb.) Blume	ザザ/ギンラン	19840415	日本	埼玉県	埼玉国立自然植物園
3	<i>Cardamine hirsuta</i> (Thunb.) Blume	ザザ/ギンラン	198205**	日本	埼玉県	埼玉国立自然植物園
4	<i>Cardamine hirsuta</i> (Thunb.) Blume	ギンラン	19900903	日本	埼玉県	埼玉国立自然植物園

S NETの改修
利用性向上



JBIF戦略目標(2017-2022)

Get data How to Tools Community About

PROGRAMME

BIFA: Biodiversity Information Fund for Asia

ABOUT NEWS EVENTS PROJECTS



日本生態学会誌 69 : 119 - 125 (2019)

学術情報

生物多様性情報学の今後を見通す

Global Biodiversity Information Conference 2 (GBIC2) 参加報告

大澤 剛士^{1*2}・細矢 剛^{2*3}・戸津 久美子^{2,4}

¹ 首都大学東京 都市環境科学研究科 観光科学域

² GBIF 日本ノード JBIF

³ 国立科学博物館 植物研究部/標本資料センター

⁴ 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター



アジア地域独自活動の展開
GBIC2への参加

戦略目標に従い、一定の成果は
挙げてきたと自負しています。



それに伴い、更なる課題も
明確化されてきました



- JBIFのこれまで (2012-2021)
- 今後ますます必要とされる
取り組み
- 日本の生物多様性情報の今後 (提案)

1. データ横断利用の実現
2. 種名リストの整備
3. 公的機関以外によるデータ共有
4. 新しい観測技術への対応
5. データ蓄積、利用における相談窓口

1. データ横断利用の実現

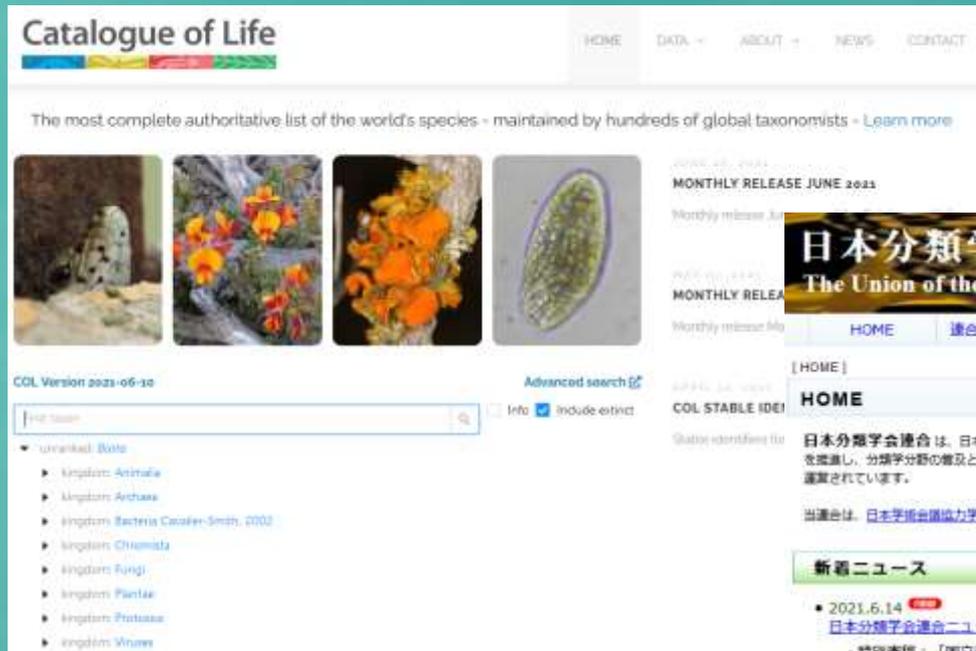


各種の関連データベース等を横断利用できる仕組みがない



https://ikilog.biodic.go.jp/?_ga=2.257020110.477739571.1623811927-1246552519.1623811927
<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/keityo/tanbo/>

2. 種名リストの整備



基本的な単位である”種名”について
統一リストが整備されていない

<https://www.catalogueoflife.org/content/annual-checklist-archive>

<http://www.ujssb.org/>

3. 公的機関以外によるデータ共有



アマチュアによる調査データ等を共有、それを支援する仕組みがない

※自記名アプリによる登録納入状況をお読みください。本誌の方は同封した申込用紙で登録を申し込みください。(なお、名置委員は登録納入は不要です。)
 編集費:0000-1-16996、神奈川昆虫研究会
 費:1年額5,000円、学生2,500円、中学生以下1,000円

2021・2022年度の事業計画
 21年度からして割り込まれた会費により、2021年度と2022年度の2年間の事業を行います。
「神奈川虫報」「花蝶風月」の発行予定
 年2回発行の予定ですが、感染症によっては追放発行の可能性もあります。
 2021年5月 (神奈川虫報 204号 / 花蝶風月 179号)
 2021年12月 (神奈川虫報 205号 / 花蝶風月 179号)
 2022年5月 (神奈川虫報 206号 / 花蝶風月 180号)
 2022年12月 (神奈川虫報 207号 / 花蝶風月 179号)

2021・2022年度の例会予定
 ROKID-19 (新型コロナウイルス) の感染が収束していないことから例会開催は未定です。
 開催できるときは、事前にメールまたは厚着にてお知らせし、ホームページに掲載します。

神奈川昆虫研究会幹事会



<http://tkm.na.coocan.jp/kanakan.html>
<http://saitama-konchu.jp/>
<http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/index-j.html>

4. 新しい観測技術への対応



環境DNA、AI、3D画像等、
新しい形式のデータが増加
これに対応していく必要がある



<https://biome.co.jp/app-biome/>
https://ctseibutsu.jp/data/data_crab.html



5. データ蓄積、利用における相談窓口



データを提供したい、利用したい
方をサポートする体制が足りない

いらすとや

これら課題をクリアするためには
国レベルでの仕組みが必要と考えます



- JBIFのこれまで（2012-2021）
- 今後ますます必要とされる取り組み
- 日本の生物多様性情報の今後
（提案）

1. 国レベルでの共通ルール

2. 統合ポータルサイト

3. 政策支援体制

4. 生物多様性情報のオープン化

2. 統合ポータルサイト



各省庁の取り組みを串刺しする仕組み
全ての入り口となるコアサイト



3. 政策支援体制



生物多様性国家戦略 2012-2020
～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～

根拠に基づく政策立案への支援
保全だけではない
すべての生物資源に関わること

<https://www.ipbes.net/>

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/bds_maff/index.html

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_mn_000018.html

https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives/files/2012-2020/01_honbun.pdf

4. 生物多様性情報のオープン化



研究者だけのためのものではない
政策、行政ツールだけでもない

誰もが生物多様性情報を
身近で利活用、蓄積に貢献できる
仕組みと体制



いらすとや



まとめ

- ・着実に発展してきた日本の生物多様性情報
- ・発展したからこそ見えてきた課題
- ・進むべき方向は明確
- ・国際的な立場は変わっても、やるべきことは変わらない



今後ともよろしく申し上げます。

